

4 徳島県立文学書道館

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しまれ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業

	事業名	概要	金額(円)
1	第21回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。令和5年度は、小説18人、脚本4人、文芸評論5人、児童文学15人、随筆53人、現代詩48人、短歌212人、俳句390人、川柳486人、連句17人の計1,248人から2,246点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、当館で表彰した。</p> <p>表彰式:令和6年2月11日(日・祝) 応募者数: 1,248人 応募作品数: 2,246点 会場:ギャラリー</p>	1,541,734
	小計		1,541,734

(2) 年鑑編集・刊行事業

	事業名	概要	金額(円)
1	研究紀要「水脈」20号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料などの調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部 販売価格:無料</p>	349,306
	小計		349,306

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな生き方について考える講座。作家の藍銅ツバメさん、徳島大学教養教育院准教授のモートン常慈さん、写真家の大杉隼平さん、画家の國久真有さんの徳島ゆかりの4人を講師に迎えた。いずれも専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、充実したものとなった。</p> <p>日時:令和5年6月～9月(全4回) 受講者数:154人 受講料:無料 会場:講座室</p>	365,073
2	文学講座 小説を書こうー佐藤洋二郎の創作講座	<p>優れた作家でありながら、指導の名手としても知られる佐藤洋二郎さんによる創作講座。文学賞への応募を目指し、言葉による確かな表現を身に付けた。</p> <p>日時:令和5年5月～9月(全5回) 受講者数:138人 受講料:無料 会場:講座室</p>	787,265

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
3	文学講座 原爆朗読劇 「夏の雲は忘れない」	女優の山口果林さんらが12年にわたって上演し続けた原爆朗読劇を当館が引き継いでから3回目の今回は、朗読者に鳴門教育大学附属小学校の児童4人が加わった。情感あふれる朗読に、参加者からのアンケートでは、「大人から子どもまで様々な年齢の人たちで語り継ぐことが意味深い」といった声が多く寄せられた。 日時:令和5年8月6日(日) 受講者数:122人 受講料:無料 会場:ギャラリー	388,620
4	第22回言の葉朗読会	開館以来、毎年開催している言の葉朗読会には、20組、総勢27人が出演した。幅広いジャンルの作品が朗読され、群読など工夫を凝らしたものもあり、楽しく充実した朗読会となった。 日時:令和5年9月23日(土・祝) 受講者数:58人 受講料:無料 会場:講座室	3,148
5	文学講座 短歌を作ろう	歌人の竹安隆代さんを講師に迎え、現代短歌の秀歌を鑑賞しつつ、実作を基礎から学ぶ講座。「自分を詠む」など、各回のテーマについて理解を深めながら、経験者も初心者も共に実作を試み、短歌を作る楽しさを味わった。 日時:令和5年10月～令和6年3月(全6回) 受講者数:184人 受講料:無料 会場:講座室	122,520
6	秋の文学講演会 I	徳島に来るのは4、5回目であり、作品「しき」にも阿波踊りや徳島出身の人物を描いた芥川賞作家の町屋良平さんを招いた。人には思い出を持つという幸福があり、個人の小さな意志を超えた無意志的記憶を呼び起こさせることが文学の役割だと語った。 日時:令和5年10月22日(日) 受講者数:95人 受講料:無料 会場:ギャラリー	534,717
	秋の文学講演会 II	数々の傑作を生み出し、多くの熱烈なファンを持つ直木賞作家の桐野夏生さんを招いた。これから刊行される徳島ゆかりの人物をモデルにした小説のことや、42歳でデビューして以来、出会った人々、体験した怖い話、文学賞の審査のことなど、参加者は釘付けになって聞いていた。 日時:令和5年11月26日(日) 受講者数:148人 受講料:無料 会場:ギャラリー	

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
7	文学講座 古典を読む 「寂聴が好きだった源氏物語の女たち」	堤和博徳大大学院教授が講師を務める「源氏物語」についての講座。瀬戸内寂聴が『私の好きな古典の女たち』で取り上げた朧月夜、六条御息所、明石の君を紹介し、深く読み込んだ。 日時:令和5年11月～令和6年3月(全4回) 受講者数:158人 受講料:無料 会場:講座室	90,000
8	書道講座 一流書家による席上揮毫	現代書壇を代表する書家が作品制作の姿を披露する書道講座。講師は創玄書道会理事長で日本芸術院賞を受賞した永守蒼穹さん。揮毫に先立ち、「書きたい」と心震えた題材を書くという講師が、過去に出品した自作を示しながら制作の意図や当時の心境などを解説。数点を紹介した後、揮毫を披露した。 日時:令和5年7月17日(月・祝) 受講者数:161人 受講料:無料 会場:ロビー	342,429
9	書道講座 書の鑑賞	台東区立書道博物館主任研究員の鍋島稲子さんが講演。国内外での自身の経験を踏まえた書の見方・鑑賞法を話した。また、書作品は作品が入っていた箱や、包みなどの付属品、作品の序跋にも鑑賞の価値があることを、画像を使って分かりやすく説明した。 日時:令和5年10月21日(土) 受講者数:82人 受講料:無料 会場:ギャラリー	186,448
10	書道講座 書道講演会	屏風や掛け軸を制作し個展を開催するかたわら、書家や日本画家などとのコラボレーションも多く手がけてきた表装作家の麻殖生素子さんによる講演会。これまでに制作した書家の作品を紹介しながら、表装に用いた材料や書作品を生かす工夫などについて語った。 日時:令和5年11月5日(日) 受講者数:98人 受講料:無料 会場:ギャラリー	309,089

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
11	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	毎年恒例の小学生対象の講座。1年生から6年生まで16人が、伝統文化の「書き初め」にちなんで特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm×穂の直径4cm)と68cm×70cmの紙を使って大字作品を制作した。はじめに当館職員が書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢などを説明し、その後約1時間で、各自が書きたい漢字一字を、墨をたっぷり含んで重くなった筆で、体全体を使って揮毫した。最後には迫力のある大字作品が仕上がり、作品は1月11日から30日まで1階ロビーに展示した。 日時:令和6年1月8日(月・祝) 受講者数:16人 受講料:無料 会場:講座室・実習室	28,336
12	書道講座 書道実技講座—近代詩文書	書道作品の制作を行う実践的な講座で、前年度に続いて講師は小竹石雲さん(毎日書道会理事)。1回目は、「古典に学ぶ表現の工夫」として、「清新さ」「素朴さ」「豪放さ」について説明した。その3つの書風を範書して筆使いを説明した後、受講者が書きたい書風を1つ選び、講師が手本を書いた。2回目は、お手本を元に、作品の構成・余白・遠近感についての解説があり、受講者が書きたい題材で制作した作品を講師が添削指導した。3回目は、受講者の作風に合わせた指導により、作品が完成。作品は4月13日から5月12日まで1階ロビーに展示した。 日時:令和6年2月～3月(全3回) 受講者数:30人 受講料:無料・材料費実費 会場:実習室	137,495
13	ことのはロビーコンサート	文学書道館の存在を知ってもらい、気軽に足を運んでもらうことを目的として開催。各回、徳島ゆかりの演奏家には、言葉や文学にまつわる曲、開催中の展覧会に関わる曲をプログラムに組み込んでもらい、文学書道館ならではの独創性を生み出した。 日時:令和5年5月～令和6年3月(全6回) 入場者数:847人 入場料:無料 会場:ロビー	1,039,853
	小計		4,334,993

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生の歩みと文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	-

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などを紹介している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	-
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管した収蔵庫内をガラス越しに公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品の紹介も行っている。 期間:通年 会場:収蔵展示室	-
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書斎を再現している。年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介している。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	-
5	文学特別展 寂聴 美のコレクション (特別展示事業)	瀬戸内寂聴が生前にコレクションしていた絵画・書画などを展示するとともに、展示した美術品にまつわる小説・随筆を併せて紹介した。また、寂聴が自転車や草花などを描いた水彩画、仏像を展示した。作家が身の回りに置いてインスピレーションを受けていたもの、日々の慰めになっていたものの美的な印象から、小説やテレビなどのメディアでのイメージとは違った、寂聴の新しい側面を感じてもらう機会となった。 会期:令和5年4月8日(土)～5月28日(日) 44日間 入場者数:699人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	1,637,169
6	書道特別展 小坂奇石 ー自作の漢詩を書く (特別展示事業)	昭和の時代を代表する書家・小坂奇石は、「線の行者」として、鍛錬の上に立った味わい深い線が魅力の作品を数多く残した。また漢詩の詠める書家でもあった。今回の特別展では、自作の漢詩を題材にした書作品や陶磁器合わせて26点を展示。詩の内容とともに、ゆかりのある写真も展示し、書技と一体となった奇石作品の魅力を多方向から楽しめる展示とした。 会期:令和5年6月16日(金)～8月3日(木) 42日間 入場者数:1,169人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー	1,440,775

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
7	文学特別展 富士正晴と「VIKING」の 同人たち 併催:藤本巧写真展「作 家の群像富士正晴とそ の時代」 (特別展示事業)	三好市出身の作家・富士正晴は、戦後間もなく同人誌「VIKING」を創刊し、島尾敏雄、庄野潤三ら名だたる作家を輩出。富士とともに切磋琢磨した主な「VIKING」同人や、同誌に発表した作品などを紹介した。 また、富士正晴を数多く撮影した写真家・藤本巧は、富士と関係の深かった作家や文化人の写真も撮影。藤本が撮りためた彼らの写真を展示し、富士の作家としての生きざまと、その仲間たちを紹介した。 会期:令和5年8月11日(金・祝)～9月24日(日) 39日間 入場者数:485人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,174,284
8	書道特別展 勝瀬景流ー力強く、流麗 な仮名 (特別展示事業)	小松島市生まれの書家・勝瀬景流は、日展で1996年と翌年の無鑑査出品を経た98年に特選を受賞し、徳島県在住書家として初めて特選連続受賞の快挙を成し遂げた。独自の書風を築き、線に強さを含んだ流麗な作品を残したほか、書道結社「光輪社」を主宰し、多くの後進を育て、本県の書壇を牽引した書家でもあった。本展では、30代から急逝した70歳までの仮名作品を中心に、ペン字作品や調和体、漢字の作品を含む51点を展示し、力強く、流麗な勝瀬景流の書の世界を紹介した。 会期:令和5年9月30日(土)～11月12日(日) 38日間 入場者数:711人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,661,484
9	文学特別展 田中富雄と「徳島作家」 の時代 (特別展示事業)	田中富雄により創刊され、岡田みゆきや中川静子といった芥川賞、直木賞候補作家を生み出し、全国でも傑出した同人誌と呼ばれた「徳島作家」。本展では同人たちの華々しい活躍を中心に、徳島の文芸を牽引した「徳島作家」の創刊から2006年の終刊に至るまでの歩みを紹介。また、「作家は行動しなければならない」という田中の信念のもと、同人たちが奔走した野上彰の詩碑建立や阿波の歴史を小説にする会の活動についても紹介した。 会期:令和5年12月12日(火)～ 令和6年2月12日(月・振休) 48日間 入場者数:448人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・収蔵展示室	1,334,470

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
10	書道特別展 角元正燦一書は自画像 である (特別展示事業)	現代書壇の第一線で活躍している阿南市出身の書家・角元正燦は、“作品は自身がさらけ出されてしまう自画像”との考えのもと、師の青山杉雨が確立した書のモダニズムの継承者として独自の書風を作り上げた。成田山書道美術館、個人、日展会館や当館所蔵作品のほか、地元・阿南市夢ホール(阿南市文化会館)の緞帳に使われ、県民に親しまれている「夢場」など46点を紹介。20代の頃の作品から、2023年11月の日展に出品された近作までを一堂に集め、氏の書道人生をたどった。 会期:令和6年2月16日(金)～3月24日(日) 33日間 入場者数:670人 観覧料:260円～520円 会場:特別展示室・ギャラリー・書道美術常設展示室	5,699,831
11	企画展 中林梧竹ーデザイン性 あふれる金文 (企画展示事業)	主に明治時代に書家として活躍し、現代にも通じる芸術的な作品を残した“明治の三筆”の一人、中林梧竹。当館では開館以来、毎年、テーマを設けて梧竹の展覧会を開催し、梧竹作品の魅力を紹介している。今回は、当館所蔵の作品約380点のうち、青銅器などに施された文字「金文(きんぶん)」を題材にした22点を展示し、梧竹のデザイン性豊かな書の世界を紹介した。 会期:令和5年6月13日(火)～9月24日(日) 91日間 入場者数:1,943人 観覧料:100円～310円 会場:書道美術常設展示室	246,658
12	企画展 第12回とくしま芸術文化 賞受賞記念 地上の光を求めて ー宮武健仁写真展 (企画展示事業)	吉野川、四万十川など穏やかな水の風景を原点とし、現在は火山や水辺の蛍など、闇夜に輝くさまざまな存在を求めて日本各地を旅する徳島育ちの写真家・宮武健仁。第12回とくしま芸術文化賞(2020年、徳島県文化振興財団主催)受賞記念として代表作67点を展示。会場には叙情性が高く迫力のある作品が並び、写真がプリントされたタペストリーが天井から吊り下げられて空間に彩りを添えた。 会期:令和5年10月3日(火)～13日(金) 11日間 入場者数:1,043人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	791,547
13	書道企画展 第8回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学4年生から高校生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。今回は席書作品248点と招待参加者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、優秀賞受賞者76人を表彰した。 会期:令和5年12月2日(土)～10日(日) 8日間 入場者数:555人 観覧料:無料 会場:ギャラリー	755,789
	小計		15,742,007
	合計		21,968,040